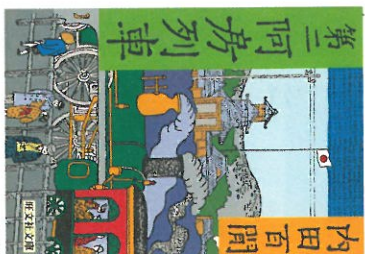


# 18 文庫・内田百閒

内田百閒のエッセイ集は、『阿房列車』(1979、旺文社文庫)から始まり、後期には福武書店に版元を移して延々68冊に及ぶシリーズを形成した。この仕事の発端は、担当編集者とのさげすまない出会いがその始まりだったと田村は述べているが、独特で味の濃いジャケットデザインが新たな読者層の形成に大きく寄与したことを疑う者はいないはずである。それは内田百閒再評価という社会現象を誘引するほどの一石を投じたのだと思う。



18-01



18-02



18-03

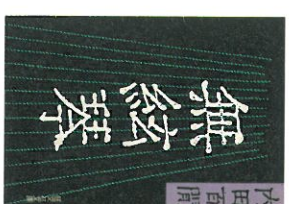
- 18-01 | 内田百閒著『阿房列車』カバ-
- 18-02 | 内田百閒著『第二阿房列車』カバ-
- 18-03 | 内田百閒著『第三阿房列車』カバ-



18-04



18-05



18-06



18-07



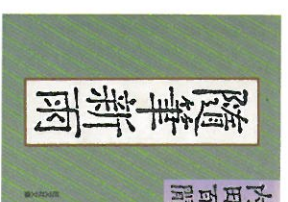
18-08



18-09



18-10



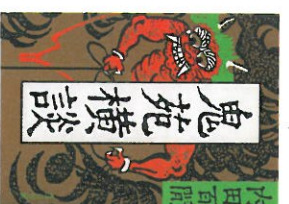
18-11



18-12



18-13



18-14



18-15



18-16

- 18-04 | 内田百閒著『百鬼園隨筆』カバ-
- 18-05 | 内田百閒著『百鬼園隨筆續』カバ-
- 18-06 | 内田百閒著『無絃琴』カバ-
- 18-07 | 内田百閒著『冥途 旅順入城式』カバ-
- 18-08 | 内田百閒著『鶴』カバ-
- 18-09 | 内田百閒著『凸凹道』カバ-
- 18-10 | 内田百閒著『有頂天』カバ-
- 18-11 | 内田百閒著『隨筆新雨』カバ-
- 18-12 | 内田百閒著『北溟』カバ-
- 18-13 | 内田百閒著『丘の橋』カバ-
- 18-14 | 内田百閒著『鬼苑横談』カバ-
- 18-15 | 内田百閒著『菊の雨』カバ-
- 18-16 | 内田百閒著『船の夢』カバ-